

令和2年11月1日

関係各位

京都大学生態学研究センター長  
中野 伸一（公印省略）

### 非常勤研究員の公募について（依頼）

京都大学生態学研究センターは、生態学に関する共同研究を推進する全国共同利用施設として機能してきましたが、平成22年度からは生態学・生物多様性科学における共同利用・共同研究拠点として新たに発足しました。当センターでは野外研究と実験研究および理論研究を統合して「生物多様性科学」研究を切り開き、この課題を将来発展させようとしています。また、当センターは理学研究科における大学院教育を担っており、大部門制で運営しています。つきましては、下記の要領で令和3年度の非常勤研究員を募集いたしますので、貴機関の関係者に周知を賜り、適任者の応募について御高配下さいますようお願い申し上げます。

### 記

#### 1 採用人員 非常勤研究員 若干名

#### 2 職務内容

当センターの次の研究分野のいずれかに属し、センターの研究・教育活動に従事し、センターの発展に協力していただきます。

研究分野（1）生物間相互作用が生み出す生物多様性に関する研究  
[担当教員：高林純示（教授）・東樹宏和（准教授）]

本研究分野では、陸上生態系において、植物-昆虫相互作用や様々な被食-捕食・寄生・相利共生系の生物間相互作用や生物多様性を解明することを目的としている。例えば、野外および操作実験系における植物-植食者-捕食者相互作用ネットワークに関する研究、植物の誘導防衛反応に関する研究、植物間コミュニケーションに関する研究、土壌・植物・動物内の微生物叢に関する研究、食物網の動態に関する研究に興味を持ち意欲的に取り組んで頂ける方の応募を歓迎する。研究対象は、昆虫や植物、真菌、細菌、土壌動物等、幅広く対応が可能である。各種の化学分析やDNAメタバーコーディング、ゲノム解析、バイオインフォマティクス等を柔軟に取り入れた研究をサポートすることもできる。

研究分野（2）水域における生物多様性と生態系機能および保全に関する研究  
[担当教員：中野伸一（教授）]

水域生態系（主に湖沼）における生物群集の多様性、生物間相互作用と物質循環および保全に関する研究を進めている。研究は琵琶湖をはじめ、日本、世界各地の湖沼で行っている。以下の研究内容のいずれか、ないしは複数にまたがって、独創的な切り口から研究を推進できる方の応募を歓迎する。1. 生物群集の多様性と機能に関する研究。2. 生態系の物質循環とその制御機構に関する研究。3. 水域生物群集の保全に関する研究。

### 研究分野 (3) 熱帯林における生物多様性と生態系機能

[担当教員：石田 厚 (教授) ・酒井章子 (教授) ]

生物多様性と関連させ、熱帯・亜熱帯林の生態系機能やその特性、熱帯・亜熱帯地域での人と森林の関係についての研究を行っている。植物の光合成・水・栄養塩の利用特性、物質循環、分解作用、植物と菌類や昆虫・動物間との相互作用、あるいは社会-生態システムに関する研究に意欲のある方の応募を希望する。

### 研究分野 (4) 分子解析手法による生物多様性および生態系機能に関する研究

[担当教員：工藤 洋 (教授) ・木庭啓介 (教授) ・本庄三恵 (准教授) ]

フィールド研究に分子的な解析手法を持ち込むことによって、生物多様性の分子的基盤および生態系機能を明らかにすることを目的としている。以下の研究テーマについて研究を推進できる方の応募を歓迎する。植物に関する分子生態学的研究で、トランスクリプトームとエピゲノムデータを用いたフェノロジー、局所適応、生物間相互作用、ウイルス生態に関する研究。安定同位体の自然存在比を用いた研究で、微生物生態、食物網や動物行動、流域環境に関する研究や、安定同位体比測定手法の新規開発に関連する研究も歓迎する。

### 研究分野 (5) 理論生態学による生物多様性および生態系に関する研究

[担当教員：山内 淳 (教授) ・谷内茂雄 (准教授) ]

数理モデルを主な方法として、次の1-5のテーマのいずれか (複数でもよい) において、主体的・独創的に研究を推進できる方を望む。1. 生物多様性の維持・創出 (進化理論を含む) 機構の解明、2. 生物多様性と生態系機能の関係の解明、3. 進化生態学的な視点からのゲノム進化の理論的研究、4. 人間活動・地球環境変動による生態系変動・多様性喪失機構の解明、5. 持続可能性科学・地球環境学の視点からの保全理論の構築。また、生態研の各部門 (陸域相互作用、水域、熱帯、分子解析) と積極的に交流していく意欲のある方を歓迎する。

## 3 資格

- 1) 博士の学位を取得した者、または任用時まで学位取得が確実な者
- 2) 任用時において、常勤の職、大学院学生および研修員等の身分を有しない者

※ 若手研究者の応募を期待します。

※ 京都大学では時間雇用職員としての雇用は5年を超えることはできません。すでに京都大学において職歴のある方は、事前に下記9の問合せ先にご相談ください。

## 4 待遇・期間等

- 1) 非常勤研究員
- 2) 任期は 1年。審査により最長 2年まで継続可能。

## 5 採用予定 令和3年4月1日

## 6 提出書類

- 1) 履歴書 1部
  - 2) 研究業績目録 1部（原著論文、総説、学会発表等。主要論文 5編以内に印を付けること）
  - 3) 主要論文（上記）の別刷等
  - 4) これまでの研究内容についての概要（2,000字程度）
  - 5) 希望する研究分野と担当教員、及びその分野での応募者の研究計画（2,000字程度）  
（事前に担当教員に連絡をとり、応募について打ち合わせておくこと）
  - 6) 継続応募の場合、センターでの研究成果の概要（1,000字程度）
- ※ 上記をPDFファイルにして、送信。

## 7 公募締切 令和3年1月31日（日）17時必着

## 8 書類送付先

application%ecology.kyoto-u.ac.jp（%を半角@に変更のこと）へメールで提出  
受信確認メールを送信します。

## 9 問い合わせ先

研究・職務内容に関しては各担当教員に、提出書類等についてはセンター総務掛（Tel  
077-549-8200、Fax 077-549-8201）に問い合わせてください。  
当センターHP <http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/> も参考にしてください。

## 10 生態学研究センターの教員構成（令和2年11月1日現在、担当可能教員のみ五十音順）

石田 厚（教授）・工藤 洋（教授）・木庭啓介（教授）・酒井章子（教授）・高林純  
示（教授）・東樹宏和（准教授）・中野伸一（教授）・本庄三恵（准教授）・谷内茂  
雄（准教授）・山内 淳（教授）